

大阪の南河内地域にある日本最古のダム式ため池、狭山池にまつわる歴史資料を保存・公開するために 2001 年に開設された狭山池博物館。その省エネルギー改修を目的として、大阪府は ESCO 事業として照明リニューアルを実施しました。安藤忠雄氏設計の建築美をそのままに、LED の明るい光が各種展示物を見やすく演出しています。

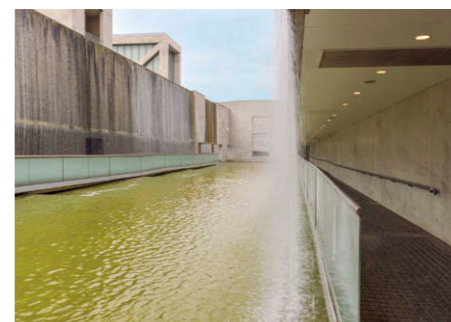
狭山池博物館は日本書紀や古事記にも記述が見られる日本最古のダム式ため池、狭山池のための歴史博物館。平成の大改修の際に行われた埋蔵文化財の調査により発見された、多数の貴重な土木資料を公開しています。展示は千四百年以上の時を追い掛けながら土木建築技術の変遷を学べるようになっており、周辺環境と一体化した建物は建築家安藤忠雄氏の設計によるもので、空間美も博物館の見どころ。年間約10万人が訪れる南河内の文化スポットです。



【物件概要】
所在地：大阪府大阪狭山市池尻中2丁目
延床面積：4,948.47m²
構造・規模：鉄筋コンクリート造地上2階建（一部3階）
施主：大阪府
リニューアル施工：東芝エレベータ(株)
リニューアル完成：2018年2月



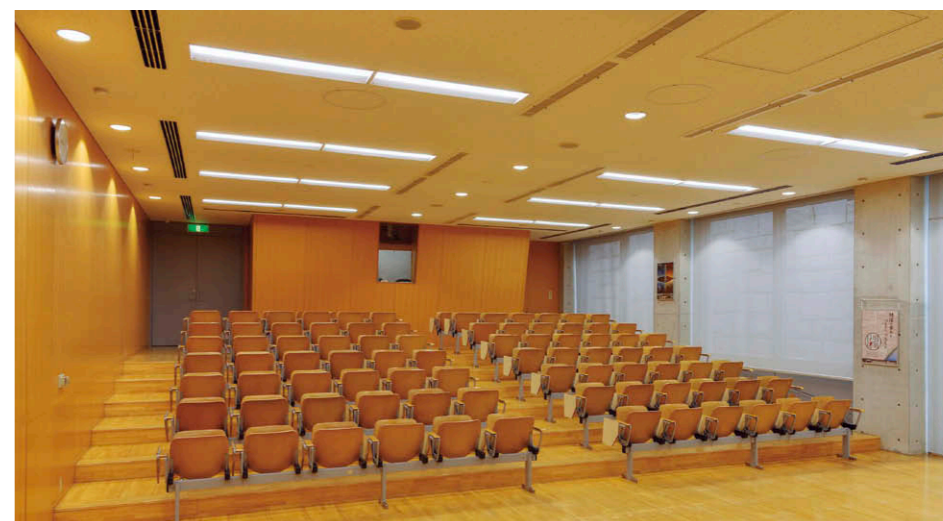
1階展示室 リニューアルプレートによりφ400mmの既存埋込穴にφ300mmの電源別置形LEDライトエンジンダウンライト③を設置。



水庭脇通路 人の動線に光の道をつくる LED ライトエンジンダウンライト①



郷土資料館 2700K の LED ライトエンジンダウンライト②による明るい閲覧環境。



2階ホール タブレット操作により用途に応じてパターン制御できる5000KのLED無線制御器具④⑤

建築時の照明設計をそのまま生かし、既存の水銀ランプ器具を LED 照明器具にリプレース。

狭山池博物館は約 1,400 年前に狭山池が築造されてから現在に至る、治水やかんがいに関する土木建築技術の変遷を学べる場です。中心的な展示物は平成の大改修の際に薄く切り出された高さ 15.4m の堤体で、断面で確認できる地層が過去の改修の様子を物語っています。この巨大な展示物に合わせて 1～3 階の吹き抜け空間として設けられた展示室には、これまでベース照明として高さ約 18m の天井面に計 30 灯の水銀ランプ器具が整列配置され、雰囲気のある光環境を創り出してきました。

ESCO 事業によるこの度の照明リニューアルでは、展示物の演出性向上と電力消費量の大幅な削減を目的に、高天井に設置できる LED ダウンライトを採用し、従来の設計照度を維持しながら省エネルギーを実現しています。器具選定にあたっては、堤体展示室だけでなく全館において、建築設計した安藤忠雄建築研究所様に逐一ご確認いただき、開館当時の照明設計を再現。建築の空間美をあらためて際立たせ、同時に展示物の見やすさも向上。来館者やスタッフから高い評価を得ています。

堤体断面展示室 電源別置形LEDライトエンジンダウンライト広角タイプ6000シリーズ③を2列計30灯配置し明るさを確保。



リニューアル器具はESCO事業を表すマーク付。



③ 電源別置形 LEDライトエンジンダウンライト一般形φ150 (1100シリーズ)
② LEDライトエンジンダウンライト一般形φ175 (1600シリーズ)
① 電源別置形LEDライトエンジンダウンライト一般形φ300 (6000シリーズ)
④ 電源別置形LEDライトエンジンダウンライトφ200 (無線制御)
⑤ LEEDD-17031-WD9
⑥ LEKRA430403N-LS9

主な掲載器具一覧				
設置場所	器具名 (品種名)	形名	台数	備考
展示室 ほか	① LEDライトエンジンダウンライト一般形φ150 (1100シリーズ)	LEDD-16001M-LD9	99	消費電力：9.8 W
	② LEDライトエンジンダウンライト一般形φ175 (1600シリーズ)	LEDD-16004-LD9	285	消費電力：13.8 W
	③ 電源別置形LEDライトエンジンダウンライト一般形φ300 (6000シリーズ)	LEDD-17051-LD9	84	消費電力：48.6 W
ホール ほか	④ 電源別置形LEDライトエンジンダウンライトφ200 (無線制御)	LEDD-17031-WD9	17	消費電力：49.6 W
	⑤ TENQOOシリーズ埋込形 (40タイプW300)	LEKRA430403N-LS9	58	消費電力：24.8 W